

PUBLICATION NUMBER : 59013401
 PUBLICATION DATE : 24-01-84

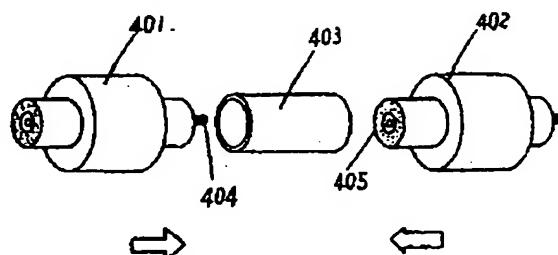
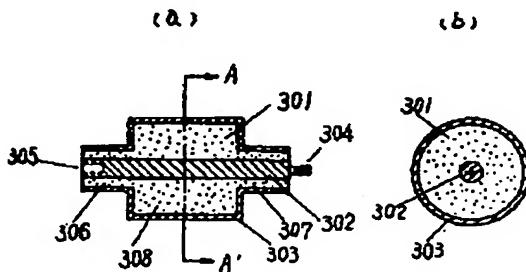
APPLICATION DATE : 14-07-82
 APPLICATION NUMBER : 57122555

APPLICANT : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD;

INVENTOR : YAMASHITA SADAHIKO;

INT.CL : H01P 1/202

TITLE : COAXIAL TYPE LOW-PASS FILTER



ABSTRACT : PURPOSE: To reduce the size of the filter and to improve vibration-proof characteristics by using plural unit coaxial lines each of which is composed of a dielectric element provided with a center conductor inserted so as to be brought into contact with the dielectric element and has the constitution that the diameter of an external conductor is reduced at its both ends and expanded at its center.

CONSTITUTION: A dielectric cylinder 301 is constituted so that the external diameter is reduced at both side end parts 306, 307 and expanded at the center part 308 and has a circular hole having a coaxially uniform internal diameter. A conductive film is formed on the external periphery of the dielectric cylinder 301 by plating or printing as an external conductor 303 and a metallic cylindrical rod 302 having an external thread 304 and an internal thread 305 on both sides is inserted and fixed into/on the central circular hole to constitute a unit coaxial line. The unit coaxial lines 401, 402 are arranged so that the external and internal threads 404, 405 are opposed and the leading end parts of the unit coaxial lines are inserted into a metallic sleeve 403 and fixed by the individual threads to connect the unit lines like multi-stages. In said constitution, a high-impedance line and a low impedance line are obtained at a part having the large external diameter of the unit coaxial line and a part having a small external diameter respectively.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio

CITED BY APPLICANT

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑮ 特許出願公開

⑰ 公開特許公報 (A)

昭59—13401

⑯ Int. Cl.³
H 01 P 1/202

識別記号

厅内整理番号
7741-5J

⑯ 公開 昭和59年(1984)1月24日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

④ 同軸型低域通過渦波器

⑦ 発明者 山下貞彦

川崎市多摩区東三田3丁目10番

⑧ 特願 昭57—122555

1号松下技研株式会社内

⑨ 出願 昭57(1982)7月14日

⑩ 出願人 松下電器産業株式会社

⑪ 発明者 牧本三夫

門真市大字門真1006番地

川崎市多摩区東三田3丁目10番
1号松下技研株式会社内

⑫ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1. 発明の名称

同軸型低域通過渦波器

2. 特許請求の範囲

- (1) 内周面と外周面とを有する同軸状誘電体を有し、前記誘電体の両端面近傍領域の誘電体の外径が、中央領域の誘電体の外径よりも小さい構造を有し、前記内周面に接して中心導体が挿入固定されており、前記外周面に沿って外導体が設けられた構造の線路を単位同軸線路とし、前記単位同軸線路を複数個総統接続して構成したことを特徴とする同軸型低域通過渦波器。
- (2) 単位同軸線路間に金属スリーブを介して接続されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の同軸型低域通過渦波器。
- (3) 単位同軸線路を構成する中心導体の一端に雄ネジ部、他端に雌ネジ部を設け、前記雄ネジ部及び雌ネジ部により単位同軸線路が接続されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項又は第2項記載の同軸型低域通過渦波器。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は VHF ~ UHF 帯で用いる、小型で耐振特性の良好な同軸型低域通過渦波器に関するものである。

従来例の構成とその問題点

従来この帯域での低域通過渦波器 (LPF) は、第1図に示すような高インピーダンス、低インピーダンス線路を同軸で構成することが多く、広帯域、低損失の電気的特性をもつことが知られている。第1図aは長手方向の部分断面図、第1図bは第1図aのA-A'における断面図である。第1図において101、102は入出力コネクタ、103は同軸外導体、104は中心導体をあらわす。中心導体104は、105で示す小さい径の部分と106で示す大きな径の部分が交互に接続された構造となっている。いま中心導体の半径をa、外部導体内径をbとし、中心導体と外導体の空間の媒質の比誘電率を ϵ_r とすると、同軸線路のインピーダンスZは

$$Z = 60 \times l_n(b/a) / \sqrt{\epsilon_r} (\Omega)$$

であらわされる。したがって中心導体106の部分は線路インピーダンスが高く、106の部分はインピーダンス部分はインダクタ、低インピーダンス部分はキャパシタであらわすことができるから、第1図の等価回路は第2図の如くあらわすことができる。

第2図において201、202は入出力端子、203～206はインダクタ、207～209はキャパシタで、これは低域通過フィルタ(LPF)の回路そのものである。

このLPFの電気的特性は、同軸線路を用いるため低損失で、かつ高い周波数まで使用でき、かつ広帯域を設計が可能であるためひろく販売されているが形状が大きいこと、中心導体の加工が難しいこと、中心導体を機械的に支持する機構が必要で、支持の方法が悪いと、耐振特性が著しく劣化すること等の欠点を有していた。

発明の目的

を形成し、外部導体303とし、中心部の円孔には、両側に雄ネジ304、雌ネジ306を有する金属円柱棒302が挿入固定されている。

第4図には、第3図お単位同軸線路を多段に接続してLPFを構成する場合の、単位同軸線路を接続固定する方法を示している。単位同軸線路401、402は、雄ネジ404、雌ネジ406が対向するように配置し、単位同軸線路の先端部を金属スリープ403に挿入し、互のネジで固定する。金属スリープ403は、接続部の外導体の接地を完全にとるためと、機械的な強度を増大する目的があり、導電性接着剤等を用いて固定される。

このようにして接続固定されたLPFの外観を第5図に、断面を第6図に示す。501、502は入出力コネクタ、503～506は単位同軸線路、507～511は金属スリープを示す。

このような構造のLPFにおいて、高インピーダンス線路は単位同軸線路の外径の大きい部分で、低インピーダンス部分は外径の小さな部分で実現

本発明は従来の同軸型低域通過渦波器の電気的性能と維持しつつ、小型化と耐振特性の向上を改善した同軸型低域通過渦波器(LPF)を提供せんとするものである。

発明の構成

最近高勝電率低損失の誘電体が開発され、その材料を用いた同軸共振界等が開発されているが、本発明はこの種の誘電体を用いて、この誘電体に接して中心導体が設けられており、外導体が両端で小さく、中央で大きくした構成の同軸線路を基本単位とし、これらを複数個継続接続した構成の同軸型低域渦波器を実現しようとするものである。

実施例の説明

第3図に本発明の同軸型低域通過渦波器として用いる単位同軸線路を示す。aは長手方向断面図、bはaのA-A'における断面図である。301は誘電体円筒で、両側端部306、307の外径は小さく、中央部308の外径は大きく、かつ同軸状に一様な内径を有する円孔を有している。誘電体301の外周は、メッキまたは焼付等で導体膜

する。すなわち、従来は内導体の径を変えて線路インピーダンスを変えたのに対し、本発明においては、内導体の径は一定にして、外導体の径を変えて高インピーダンス、低インピーダンス部を実現する。

内外導体間には誘電体が充てんされた構造となるから、耐振構造が従来の構造に対して著しく改善されるほか、誘電体による波長短縮効果(波長が1/ $\sqrt{\epsilon_r}$ に短縮される)のため形状(長さ方向)の小型化が期待できる。また単位同軸線路間が強固に固定保持されるため、耐振特性に優れている。

さらに本発明の特徴は、単位同軸線路の数を任意に増減できるために、電気的な特性を容易にかえることができる点にある。第7図は接続の個数を増やした時の減衰量の増加を示すグラフである。このような特性の変化はほとんど同一の構成部分を用いて実現可能であるため、コスト低減も可能となる。

発明の効果

特開昭59- 13401(3)

……出力コネクタ、603～606、603～
606……単位同軸共振器、607～611、
607～611……金属スリーブ。

代理人の氏名 千里士 中尾 敏男 ほか1名

以上述べたように、本発明は誘電体を利用して、誘電体に接して中心導体を設け、外導体の径が両端で小さく、中央で大きくした構成の単位同軸線路を複数個用いて実現するLPPFで、耐振特性が良好で、小型でかつ、多段構成が容易に用いられる特長を有し、その実用上の価値はきわめて大きい。

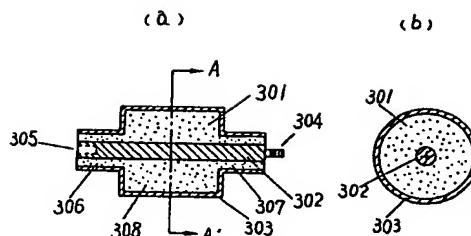
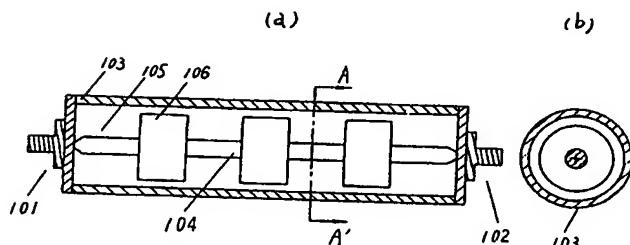
4. 図面の簡単な説明

第1図aは従来の同軸型低域渦波器の長手方向の一部断面図、第1図bは第1図aのA-A'における断面図、第2図は第1図の渦波器の等価回路を示す図、第3図aは本発明で用いる単位同軸線路の長手方向断面図、第3図bは第3図aのA-A'における断面図、第4図は本発明の単位同軸線路を接続する方法を示す斜視図、第5図は本発明による同軸型低域渦波器の斜視図、第6図は第5図に示す同軸型低域渦波器の断面図、第7図は単位共振器の接続数を増やした時の応答の変化を示す説明図である。

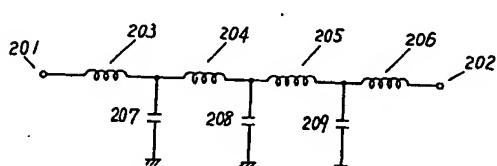
301……誘電体、302……中心導体、303
……外導体(導体膜)、601、602、601、602

第 3 図

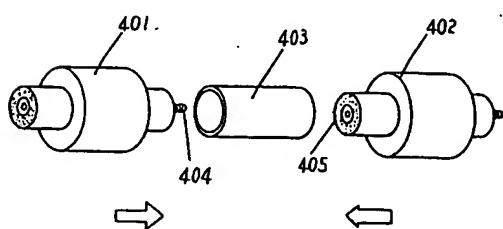
第 1 図



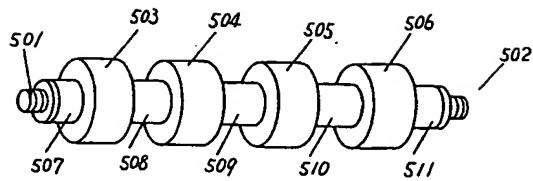
第 2 図



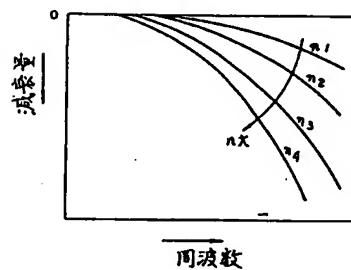
第 4 図



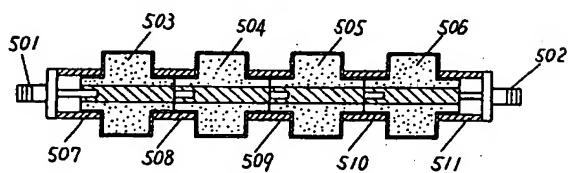
第 5 図



第 7 図



第 6 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)